第２回昭和町子ども・子育て会議議事録（要旨）

名称	第２回 昭和町子ども・子育て会議		
日時	平成 26 年 3 月 26 日（水） 19:00～20:30	場所	昭和町総合会館 2 階 相談・講習室
出席者	委員：出席１２名（欠席１名） 山梨総研：進藤、佐藤		

I.　次第

１．　開会

２．　会長あいさつ

３．　議事

（１）子ども・子育て支援に関するアンケート結果について

（２）ニーズ推計について

（３）その他

４．　その他

５．　閉会

II.　配布資料

・ 次第
・ 資料　子ども・子育て支援に関するアンケート結果（概要版）
・ 資料　ニーズ推計について
・ 参考　子ども・子育て関連３法の趣旨と主なポイント
・ 参考　昭和町における子育て支援（事業）の概要

議事

（１）　子ども・子育て支援に関するアンケート結果について

＜事務局＞
　資料に基づき「子ども・子育て関連３法の趣旨と主なポイント」とあわせて説明

＜会長＞
　事務局から説明があったが、意見等はあるか。

＜鮎川委員＞
　資料ｐ１７の病気の際の対応について、昭和町内で病児対応している保育所の名称がいくつかあげられていたが、げんき夢保育園しかやっていないのでは。

＜事務局＞
　病児・病後児対応については、げんきキッズクリニックのなかの病児保育で行っている。先ほど説明した他の３園については、体調不良時対応ができる保育所として挙げさせていただいた。保育時にちょっと熱が出たり、具合が悪くなった場合に、保護者のお迎えを待つ間、看護師が対応できるような体制をとっている。

＜会長＞
　この内容については、目を通していただいて、また検討する時間があるのか。スケジュール的にどうか。

＜事務局＞
　５月連休明けに次回の会議があるので、それまでにご意見等があれば、対応したい。

（２）　ニーズ推計について

＜事務局＞
　資料に基づき説明

＜山梨総研＞

実際の調査集計作業を行った山梨総研から以下の内容について補足説明

・潜在的家庭類型の算出方法（就労希望等を考慮した）

・０歳児の利用意向の特色（育休によりタイプＢでは低率）

・病児・病後児保育等（ニーズの濃淡により２区分して推計）

＜会長＞

事務局から説明があり、調査を行った山梨総研からも補足説明があったが、意見等はあるか。

＜高野副会長＞

大変貴重な資料を見せていただいた。数字の出し方等について、３点ほど確認させていただきたいことがある。

１１ページの表について、実績値とは現在確保できているもの、推計値とは必要だと見込まれる数と考えてよいか。実績値の方が多ければ大丈夫だと考えてよいのか。実際に集計作業を行った山梨総研にお聞きしたい。

＜山梨総研＞

実績値とはこれだけの利用があったという数になる。実際にはこれ以上の定員があって、定員割れが生じている場所があるかもしれないが、昭和町周辺ではおそらく定員いっぱいのところがほとんどだと思われる。

＜高野副会長＞

１１ページの表について、右と左の欄を比較してみると、２号認定の保育所や３号認定については、実績値が推計値を上回っているのでここは充足できている。一方、１号認定と２号認定の幼稚園を足した部分について、実績値が推計値を上回っている。ここについて説明をお願いしたい。

＜山梨総研＞

１号認定と２号認定あわせると３歳以上の児童のニーズとなる。実際に幼稚園に行っているのは 191 人、幼稚園を希望しているのは１号認定と２号認定あわせて 240 人であり、40 人ほど幼稚園に行けていないという計算になる。

しかし、２号認定の保育所等の実績が 401 人であるのに対して、２号認定の保育所と幼稚園の推計値の合計が 386 人となっており、だいたい一致してくる。

つまり、全体としてのニーズは満たせているのではないかと考えられる。しかし、幼稚園か保育所かという選択の中で、昭和町内に幼稚園がないということもあり、必ずしも希望を満たせていない可能性はある。

また、集計の細かな点ではあるが、幼稚園を希望するか、保育所を希望するかについては、複数回答が可能な質問であり、両方を選択することもできる。その場合には、国の手引きに基づいて幼稚園の希望を優先しているという点もある。

＜高野副会長＞

１２ページの一時預かりについては、推計値をみると定期的利用等のニーズが高そうであるが、実績値はわからないということでよいのか。

＜山梨総研＞

そのとおりである。

＜高野副会長＞

８ページの表について、一時預かりの表の中で定期的利用とはどのようなことであるのか。

＜山梨総研＞

この部分については、幼稚園を利用している方のニーズを推計している。幼稚園は一般的に３時から４時くらいまでとなっていることが多いので、フルタイム勤務であればあと１～２時間預かってもらいたいというニーズが発生すると考えられる。

２号認定の方は、フルタイム勤務だったり、就労時間が長いパート勤務の方が多いので、利用希望があるのであれば、それは就労日数と一致するはずだという前提で推計を行っている。そのため、国の手引きに基づいてニーズがある方の就労日数の平均を計算してニーズの推計を行った。

名称としては一時預かり等と区分されているが、実態としてはほぼ毎日利用するようなニーズになる。

＜高野副会長＞

幼稚園が終わった後、ちょっと見てもらいたいというニーズがここに現れていると考えてよろしいか。

＜山梨総研＞

そのとおりである。

＜高野副会長＞

病児・病後児保育については３ページでも説明があったが、８ページに表が３つあるが、これはどのように考えたらいいのか。

＜山梨総研＞

下の２つの表については、子育て援助活動支援事業、いわゆるファミリーサポートセンターに関する表で、表題が間違えている。

＜高野副会長＞

３ページでは、発生頻度と利用意向日数をかけて利用意向率となっているのに対して、８ページには利用意向と書いてある。これはどう考えたらいいのか。

また、８ページの表で 3.6％と 1.0 をかけて、0.0 となってしまっているが、これについては。

＜山梨総研＞

ともに同じもので利用意向率としていただきたい。

また、８ページの表では 0.0 となっているが、実際には 0.034 という値になっており、表示上は四捨五入されている。計算にあたっては、0.034 という数字を使っている。

＜高野副会長＞

難しい資料であり、わかりにくかった。少しわかったように思う。

＜会長＞

他に御意見は。

＜鮎川委員＞

教えていただきたい点がひとつある。

２ページの家庭類型の説明で、タイプＣ’の説明で一定時間とあるが、これは何時間であるのか。５ページの表でも記載されており、おそらく１２０時間以上がひとつの基準であるようだが、そのほかに下限時間という記載もある。

この一定時間とは下限時間と同じなのか、また下限時間とは何時間であるのか。

＜山梨総研＞
　下限時間については６４時間として計算している。

＜鮎川委員＞
　それは昭和町の現状の入所基準なのか。

＜事務局＞
　現状は６４時間ではないが、計画を策定するにあたって下限時間を４８時間から６４時間の間で設定することとなっているので、６４時間で算定した場合の推計を行っている。
　現在は、週５日４時間以上の方を対象としているので、週２０時間、月だと８０時間という基準になっている。

＜会長＞
　事務局として、今回の２つの資料については、各委員の方に持ち帰っていただき、次回に再び意見をいただき、その後に素案の作成というような順序でよいか。

＜事務局＞
　アンケート調査と同様にニーズ推計についても次回までに御意見等をいただければ、それにそって資料や素案の検討を行い、次回の会議においてお示ししたいと考えている。なお、計画については、３月までに策定することとなっている。

＜会長＞
　アンケート結果及びニーズ推計については、次回までに委員の皆様からの意見をお聞きしながら、資料及び素案の作成を進めていきたいということであるが、それでよろしいか。

＜鮎川委員＞
　昭和町のアンケート結果等をみるなかで驚いたことがある。それは回収率が非常に高かったということ。郵送にもかかわらず６割の方が回答しているということは、町民の関心も高いということだろうし、評価してよいのではないか。
　また、ニーズ推計の１１ページで、推計値と実績値の比較で現状の範囲に

収まっていること。自分としては、ニーズが現状よりも多いかと思っていた。
　満足度が高いということは驚いた。昭和町の役場や関係機関の方の努力もあると思うが、満足度が高いということは非常に良かったと思っている。
　この数値については、県の方に出されて広域調整がかかると聞いている。昭和町内に幼稚園がないので、199 人と 41 人の方は町外に出ていくことになる。甲府市内の幼稚園はガラガラなので、おさまっていくと思うが。
　保育所についても推計値が実績値に収まっているので、これで良いのではないかと感じた。推計値が非常に多くて実績値が少ないと、すごく問題であり、対応が大変だと思うが、逆のパターンであるので、これで良いのではないと思う。

＜事務局＞
　山梨総研は、昭和町以外にもいくつかの市や町で支援業務を行っていると聞いているので、昭和町の場合はどのような特徴があるか聞かせてもらいたい。

＜山梨総研＞
　昭和町を含め県内６市町村で支援をさせていただいている。その中で、昭和町で特徴的な部分がいくつかあるので、参考に紹介させていただく。
　まず、アンケート調査結果のほうであるが、４ページの問９の部分。「みてもらえる人がいるか」という問に対して、13.3%がみてもらえる人はいないと回答している。これは県内の他市町村に比べて高い数字になっている。他の市町村だと三世代同居等が多いこともあって、少ないところだと 5%以下の水準となっている。
　２８ページの満足度について、「やや満足」という回答が最も高かった。こちらとしても集計していて驚いたことであるが、他の市町村ではふつうという回答が最も多くなっている。そのため昭和町は満足度がとても高い市町村であると考えられる。不満やや不満もあわせて 10%以下であり、こちらも他の市町村では見られなかった。
　みてもらえる人の割合が高いにもかかわらず満足度が高いというのは、公的サービスでがんばっているということであろうし、町内の保育所等の事業者ががんばっているということだと考えられる。
　あと１点。広域調整の話が出ていたが、１３ページにある利用場所について、町外が 38%となっており割合が高い。甲府市の周辺市町村はこのような傾向にあり、それ以外の市町村になると 90%以上が市町村内で閉じているところが多い。

今回の集計の中に入っていないが、幼稚園希望者と保育所希望者で分けてみると、幼稚園希望者の場合に町外の割合が高い。昭和町の場合は町内に幼稚園がないので当然ではあるが、他の市町村においても幼稚園希望者は市町村を超えて動いている割合が比較的高い。

その理由としては、幼稚園バスの存在が大きいのではないかと考えている。保育所は子どもを連れて行かなければならないので、近くの施設を希望するのではないか。幼稚園の場合にバスが回ってきてくれるのであれば、どこの市町村なのかあまり意識せずに利用しているのではないかと考えている。

＜会長＞

山梨総研から昭和町の特色について３点ほど説明があった。満足度が高く、町や施設でがんばっているのではないかという指摘もあった。かなりたくさんの資料であるので、持ち帰って目を通していただき、事務局が連休明けに予定している次回においては意見をいただくなかで、素案に着手していきたい。

（３） その他

＜事務局＞

何回か御案内したように次回については連休明けの開催を予定している。それまでに資料に目を通していただき、御意見や御質問等があればお知らせいただきたい。

閉会

＜高野副会長＞

遅くまでご苦労様でした。

県内で子どもの数が伸びている、少なくともこの先数年は伸びていくというのは昭和町のみだと思う。子育てをするなら昭和町ということが、アンケートの高い満足度からも示された。

ちょっと気になったのは、昭和町ではファミリー・サポート・センターの活動をがんばっているが、費用負担の意見があるということであった。そのあたりなどを行政としてサポートできるとより良いかもしれない。子育てに素敵な昭和町だと感じた。

５月連休明けの次回以降の会議において、子ども子育てがしやすい街作りについて意見をいただければと思う。本日はありがとうございました。

以　上